

平成27年度学習状況調査 結果の概要

平成28年2月

義務教育課

平成27年度学習状況調査 結果概況と考察

【教科の学習状況に関する調査の結果について】

- 小学校では、ほとんどの教科が「おおむね満足」な状況である。小学校第5学年国語においては、文章の内容を理解する力は身に付いているが、適切に表現することについての問題の通過率が低いことが、平均通過率に影響を及ぼしている。

小学校第5学年国語においては、日常の生活場面を想定し、適切な言葉や表現を選択、吟味する活動を一層充実させる必要がある。

- 中学校では、第1学年の社会、理科、英語及び第2学年の理科、英語が「おおむね満足」な状況である。第1学年の国語、数学及び第2学年の国語、社会、数学においては、既習の知識や概念等を活用して、思考し表現することについての問題の通過率が低い傾向がみられる。第2学年の社会、数学においては、今年度の設定通過率を下回ったものの、昨年度より平均通過率は上昇しており、改善傾向にある。

中学校第1学年の国語、数学及び第2学年の国語、社会、数学においては、今後も基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るとともに、習得した知識及び技能を活用して、課題を解決する学習活動の充実を図る必要がある。

【学習の意欲等に関する質問紙調査の結果について】

- 学習に対する意欲については、全ての学年で肯定的な回答の割合が高い。学年が上がるに伴って、肯定的な回答が減少する傾向があるが、中学校第2学年においては、肯定的な回答の割合が昨年度よりも上昇している。
- 授業については、小学校、中学校とも「発表する機会がある」「話し合う活動をよく行っている」「授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいる」「授業の最後に振り返る活動をよく行っている」と回答した割合が高くなっている。

各学校において、児童生徒が主体的に学習課題を解決していく探究型の授業が定着している状況がうかがえる。

- 生活全般については、肯定的な回答の割合が高い。
- 家庭学習の平均時間は、平日は1時間から1時間20分程度であり、休日は1時間20分から2時間程度である。
- 読書については、小学校では84%以上、中学校では79%以上の児童生徒が「読書が好きである」と回答しており、全ての学年の児童生徒の91%以上が月に1冊以上の本を読んでいる。

本県の児童生徒には、望ましい生活習慣や学習習慣が身に付いている様子がうかがえる。特に、家庭学習の習慣は、ほとんどの児童生徒に定着している。また、全ての学年の児童生徒が、月に1冊以上の本を読んでいることは、小・中学校で取り組んでいる朝読書等の取組が要因の一つであると考えられる。教科等の学習においても、図書資料を活用する機会を増やすなど、学校図書館等を利用して学ぶことのよさを児童生徒に実感させ、積極的に利用できるようにすることが必要である。

1 調査問題の結果

(1) 小学校の平均通過率 (グラフの \blacksquare は設定通過率の $\pm 10\%$ の範囲)

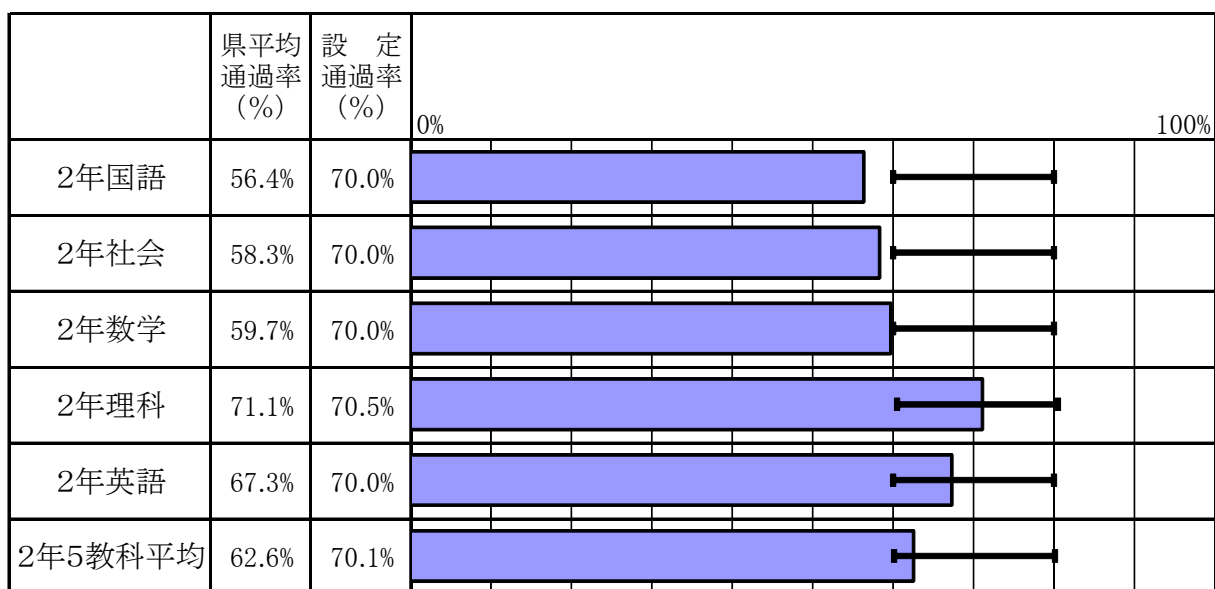
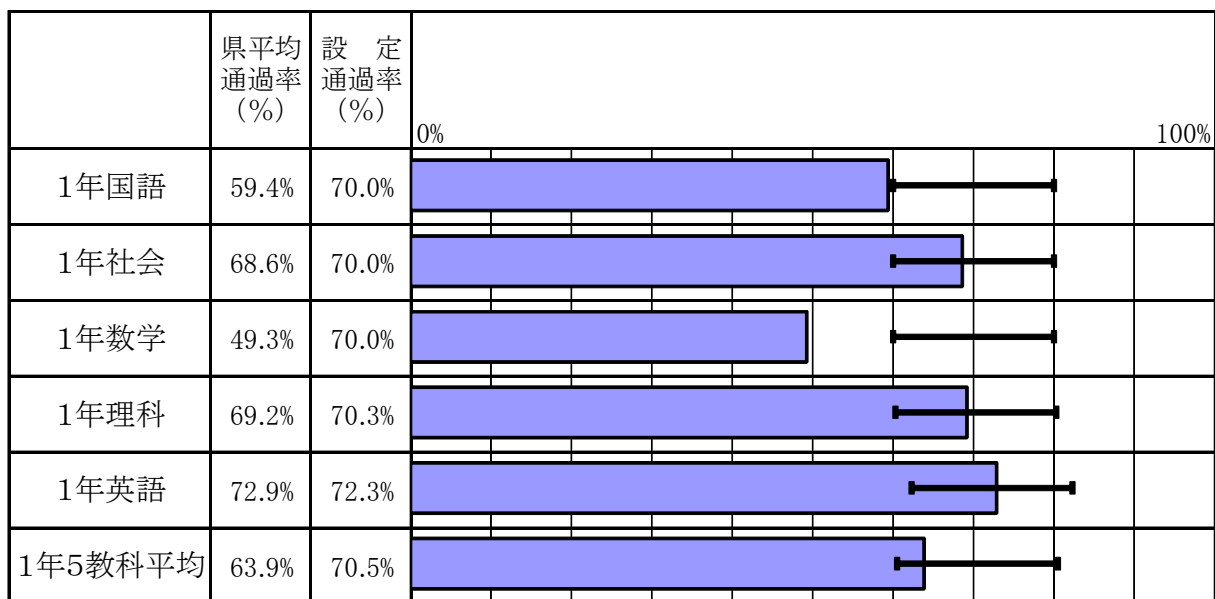
設定通過率の $+10\%$ を上回るものを「十分満足」、設定通過率の $\pm 10\%$ の範囲内を「おおむね満足」な状況とする。

	県平均 通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0%	100%
4年国語	73.6%	74.2%		
4年算数	64.0%	73.0%		
4年理科	76.7%	74.2%		
4年3教科平均	71.4%	73.8%		
5年国語	56.4%	70.0%		
5年社会	70.6%	70.0%		
5年算数	69.8%	73.0%		
5年理科	74.4%	74.0%		
5年4教科平均	67.8%	71.8%		
6年国語	68.2%	71.5%		
6年社会	66.1%	70.0%		
6年算数	62.8%	70.0%		
6年理科	79.2%	72.8%		
6年4教科平均	69.1%	71.1%		

小学校では、ほとんどの教科が設定通過率の $\pm 10\%$ の範囲内にあり、「おおむね満足」な状況にある。小学校第5学年の国語では、文章の内容を理解する力は身に付いているが、適切に表現することについての問題の通過率が低いことが、平均通過率に影響を及ぼしている。

(2) 中学校の平均通過率 (グラフの \blacksquare — \blacksquare は設定通過率の $\pm 10\%$ の範囲)

設定通過率の $+10\%$ を上回るものを「十分満足」、設定通過率の $\pm 10\%$ の範囲内を「おおむね満足」な状況とする。

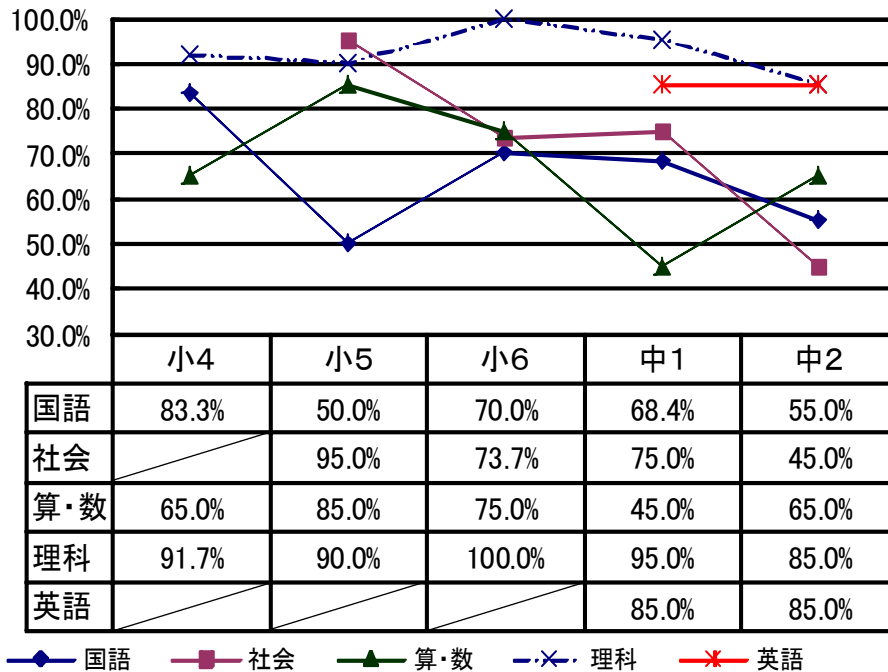


中学校では、第1学年の社会、理科、英語及び第2学年の理科、英語が「おおむね満足」な状況である。平均通過率が低い教科においては、既習の知識や概念等を活用して、思考し表現することについての問題の通過率が低い傾向が見られる。

(3) 設定通過率との比較

設定通過率の+10%を上回るものを「十分満足」、設定通過率の±10%の範囲内を「おおむね満足」な状況とする。

設定通過率に対する「十分満足」「おおむね満足」な状況の問題の割合



「十分満足」及び「おおむね満足」な状況の設問数の総計及び割合は、398問中299問、75.1%であり、「第2期あきたの教育振興に関する基本計画」における推進指標の目標値75.0%を上回った。校種別では、小学校が79.9%（199問中159問）、中学校は70.4%（199問中140問）であった。

2 学習の意欲等に関する質問紙調査結果

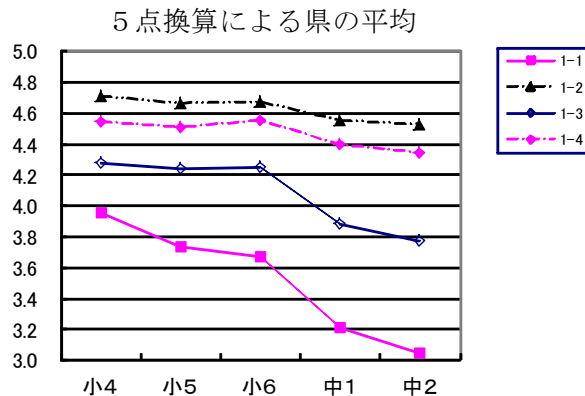
(1) 学習全般について

質問項目

1-1	勉強が好きだ
1-2	勉強は大切だ
1-3	学校の勉強がよく分かる
1-4	ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい

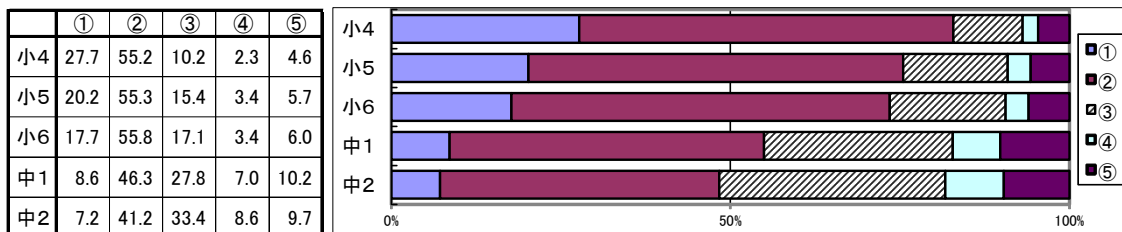
・右のグラフは、調査項目の回答類型について、次のように点数に換算して作成。

- 「つよくそう思う」… 5点
- 「そう思う」… 4点
- 「そう思わない」… 2点
- 「まったくそう思わない」… 1点
- 「分からない・どちらでもない」… 3点

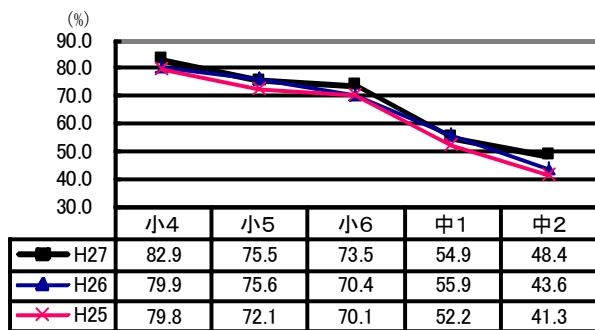


[1-1] 勉強が好きだ

①つよくそう思う ②そう思う ③そう思わない ④まったくそう思わない ⑤分からない・どちらでもない



「つよくそう思う」「そう思う」の割合

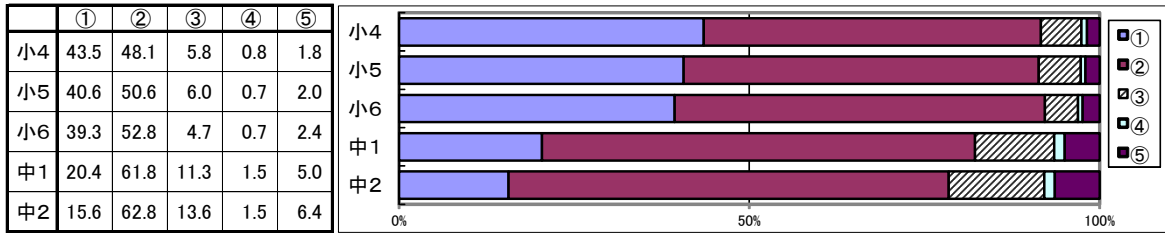


「つよくそう思う」「そう思う」と肯定的に回答した割合が、学年が上がるに伴って減少していく状況は依然として見られるが、小学校第4学年、6学年、中学校第2学年においては、肯定的な回答の割合がこの3年間の中で最も高い数値を示している。

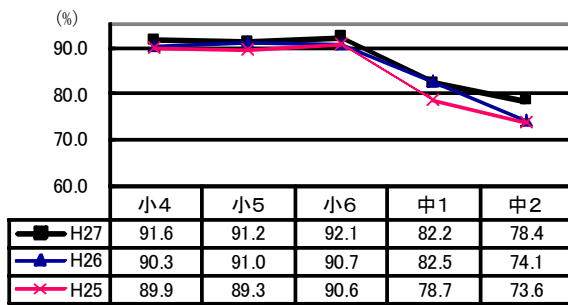
また、中学校の肯定的な回答の割合は、小学校に比べて低いものの、中学校第2学年については、昨年度より4.8ポイント上回り、小学校、中学校の全ての学年の中で最も大きな伸びを示している。

[1 - 3] 学校の勉強がよくわかる

①つよくそう思う ②そう思う ③そう思わない ④まったくそう思わない ⑤分からない/どちらでもない



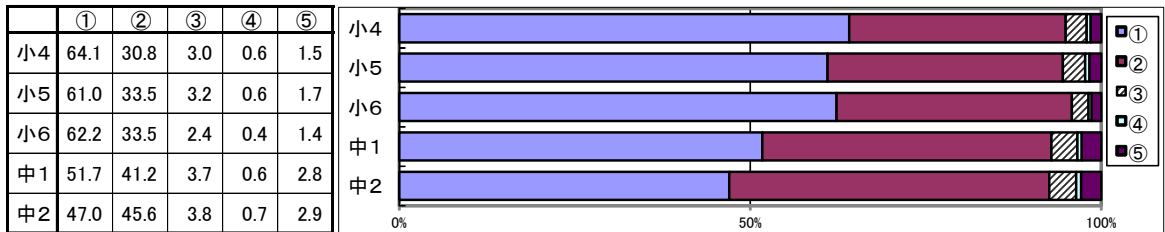
「つよくそう思う」「そう思う」の割合



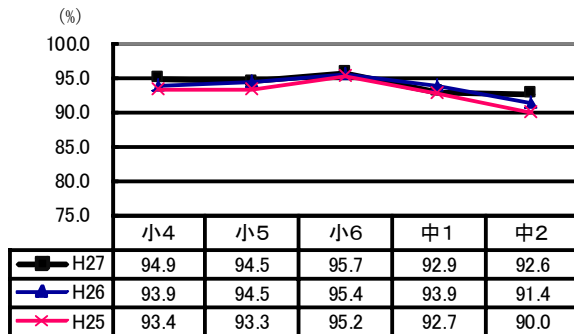
小学校の全ての学年で、91%以上が肯定的な回答をしている。中学校では全ての学年で、78%以上が肯定的な回答をしている。小学校の全ての学年、中学校の第2学年の肯定的な回答の割合の数値は、年々少しずつ高くなっている。

[1 - 4] ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい

①つよくそう思う ②そう思う ③そう思わない ④まったくそう思わない ⑤分からない/どちらでもない



「つよくそう思う」「そう思う」の割合



小学校の全ての学年で、94%以上が肯定的な回答をしている。中学校では全ての学年で、92%以上が肯定的な回答をしている。

学習したことを生活や社会で役立てようとする意識が高い。

割合が上昇したのは、小学校第4学年と第6学年、中学校第2学年であった。

(2) 授業について

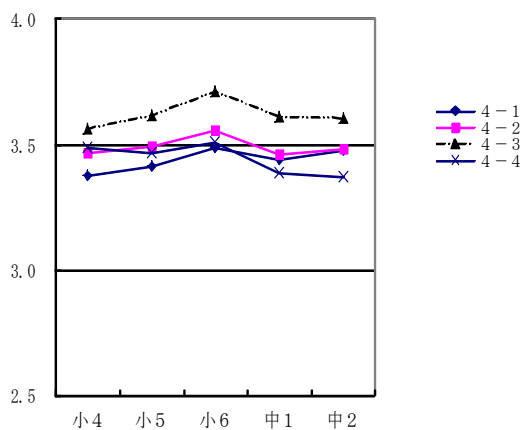
質問項目

- 4-1 自分の考えを発表する機会があると思う
- 4-2 学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う
- 4-3 授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいると思う
- 4-4 最後に振り返る活動をよく行っていると思う

・右のグラフは、調査項目の回答類型について、次のように点数に換算して作成。

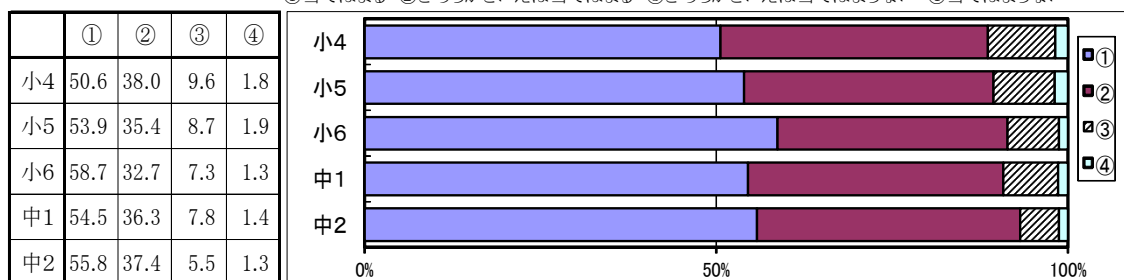
- 「当てはまる」…4点
- 「どちらかといえば当てはまる」…3点
- 「どちらかといえば当てはまらない」…2点
- 「当てはまらない」…1点

4点換算による県の平均

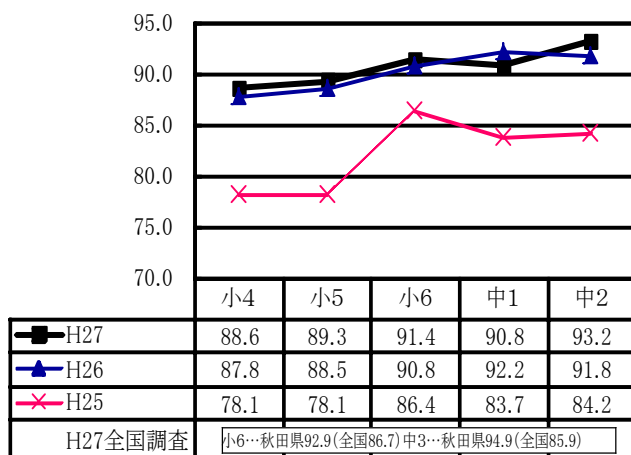


[4-1] ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があると思う

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



(%) 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合

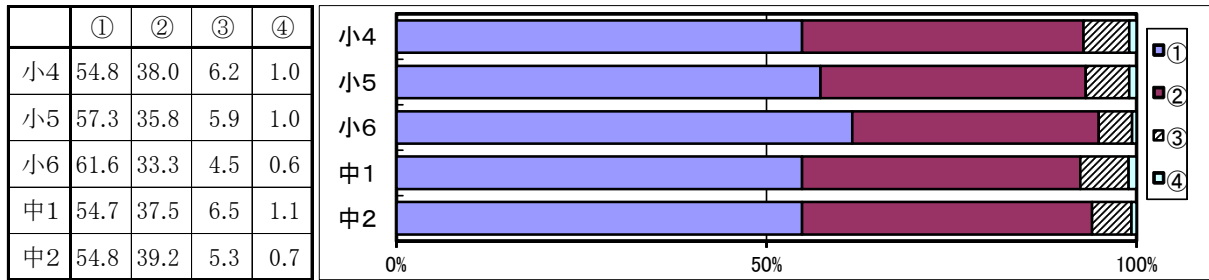


全ての学年において、88%以上が肯定的な回答をしており、ほぼ全ての学年で昨年度より高い数値である。学年が上がるに伴って、割合が高くなる傾向が見える。

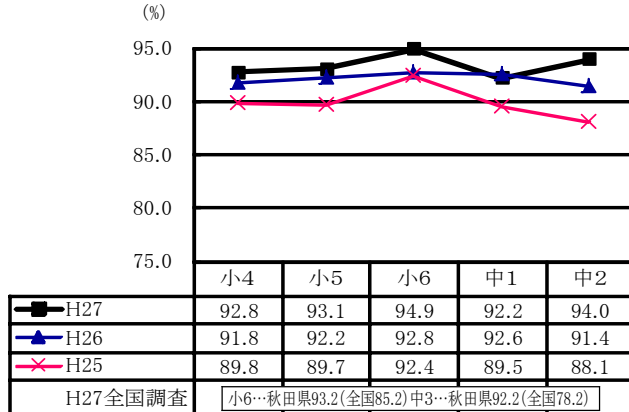
普段の授業において、児童生徒が自分の考えを発表する場が設定されていることがうかがえる。

[4-2] ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っている

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



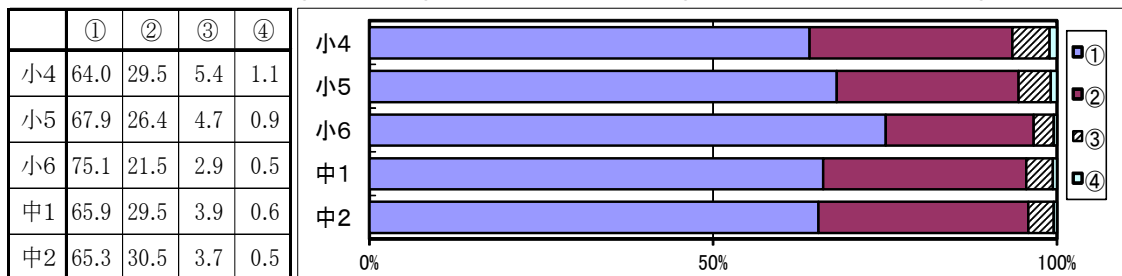
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



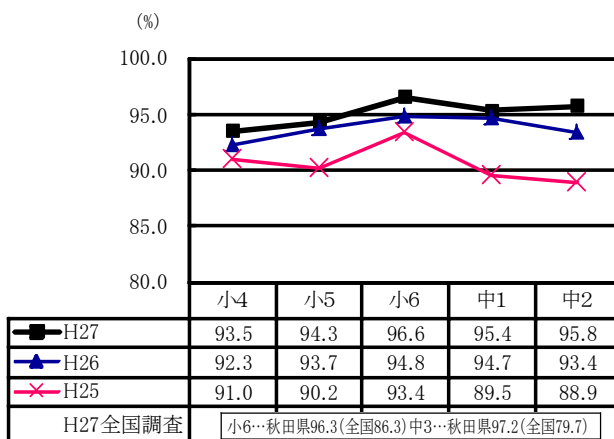
肯定的な回答の割合が、全ての学年で92%以上と高い数値を示している。
 普段の授業において、児童生徒が話し合いを行う場を意図的に設定しており、言語活動の充実に努めていることがうかがえる。

[4-3] ふだんの授業では、授業の目標（めあて・ねらい）を立てて取り組んでいると思う

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



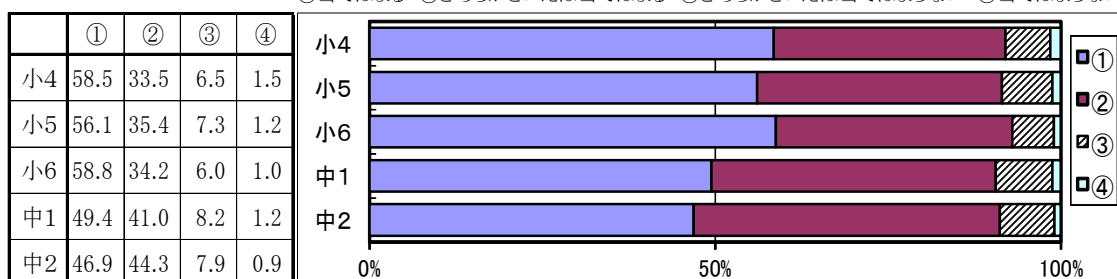
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



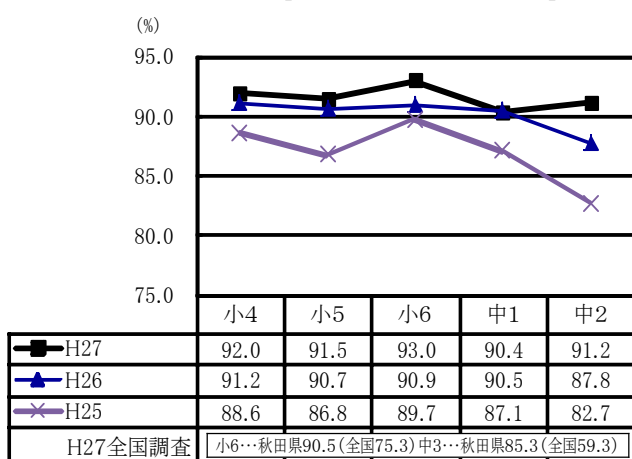
全ての学年で肯定的な回答の割合が93%以上であり、昨年度より高くなっている。児童生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、導入場面で学習の見通しをもたせる指導の充実に努めていることがうかがえる。

[4 - 4] ふだんの授業では、最後に振り返る活動をよく行っていると思う

①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③どちらかといえば当てはまらない ④当てはまらない



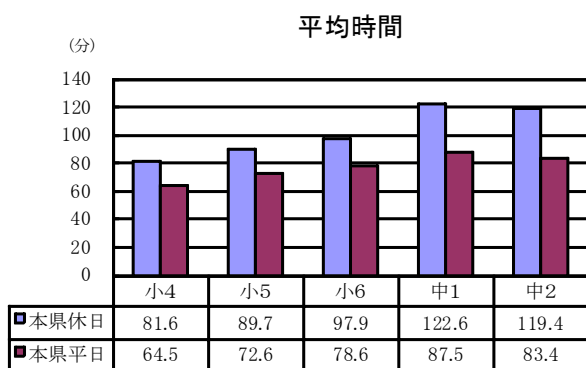
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合



小学校では91%以上、中学校では90%以上が、肯定的な回答をしている。小学校の全ての学年、中学校の第2学年においては、この3年間の中で最も高い数値を示している。

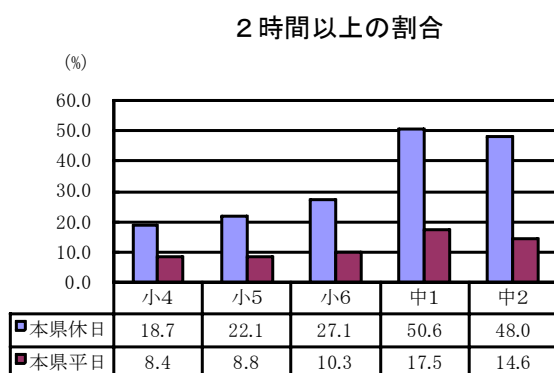
各学校において、授業の最後に振り返る活動を確実に設定していることがうかがえる。

(3) 家庭学習時間について



平日の家庭学習の平均時間は、1時間から1時間20分程度である。

また、休日の家庭学習の平均時間は、1時間20分から2時間程度で平日より長い。



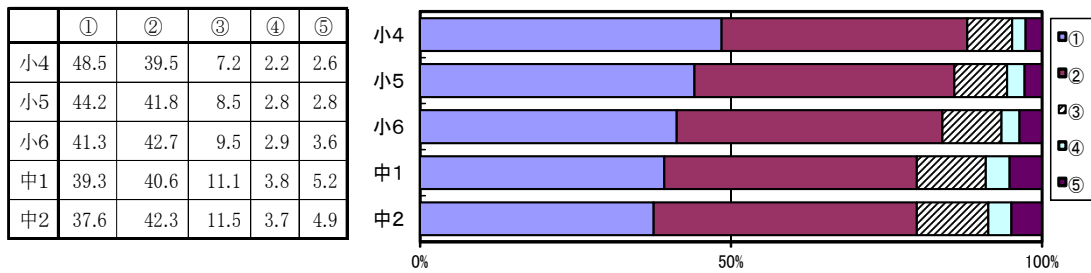
2時間以上学習している割合は中学生になると高くなり、休日の場合は約5割の生徒が取り組んでいる。

休日の平均時間は、平日の平均時間に比べて、小学校では1.2倍、中学校では1.4倍であり、休日に家庭学習を多くしている傾向が見られる。

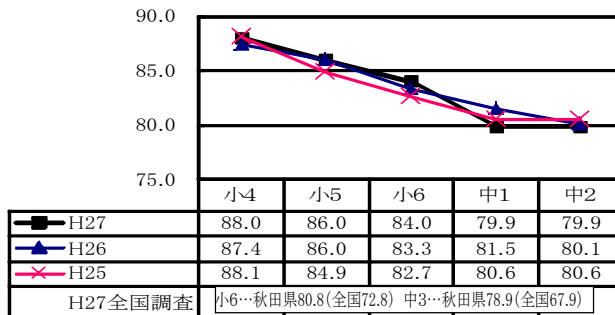
(4) 読書について

[読書は好きだ]

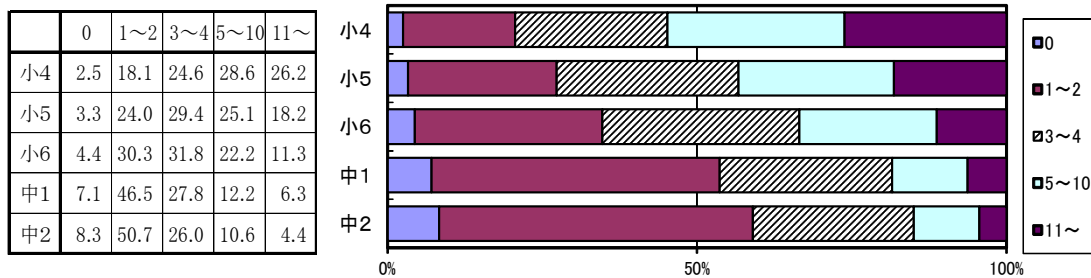
①つよくそう思う ②そう思う ③そう思わない ④まったくそう思わない ⑤分からない・どちらでもない



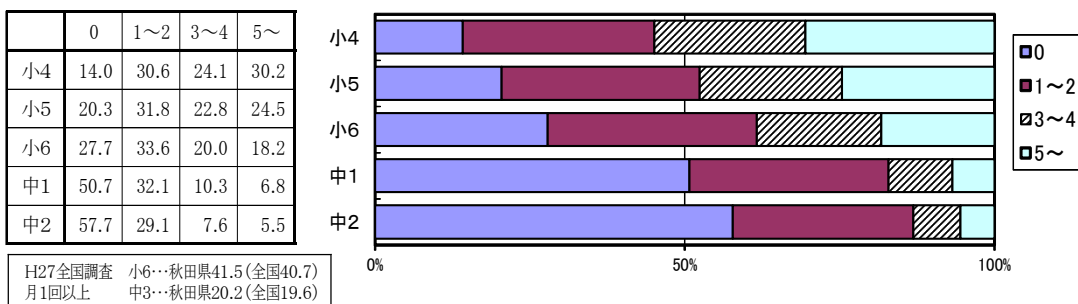
(%) 「つよくそう思う」「そう思う」の割合



[1か月に何冊くらい本を読むか（教科書・学習参考書・マンガ・雑誌や付録を除く）]



[1か月に何回くらい図書館を利用するか]



小学校では84%以上、中学校では79%以上の児童生徒が、読書が好きだという意識をもっている。また、全ての学年の児童生徒の91%以上が1か月に1冊以上の本を読んでおり、特に小学校では1か月に5冊以上の本を読んでいる児童が33%以上いることから、日常的に読書に親しんでいる様子が見えてくる。図書館の利用回数については、月に1回以上利用している児童はおおよそ7割で、生徒はおおよそ5割である。

3 調査結果の活用と課題への対応

(1) 調査結果及び報告書の送付

12月の調査実施後、学習状況調査集計・分析システムを活用することにより、全県の集計データを1月上旬に学力向上支援Webに掲載した。各学校、各市町村教育委員会ではそのデータを閲覧し、自校等と県平均通過率との比較をするなどして活用している。また、児童生徒が自分の学力を総合的に把握できるよう、個人票印刷用ソフトを配信した。今後は、各教科等の考察を加えた報告書を2月下旬に配信する。

(2) 教科に関する課題

学年・教科によっては「おおむね満足」な状況に至らなかったことについて、学習指導要領の趣旨等に基づき言語活動を取り入れた授業を展開しているものの、その活動が思考力・判断力・表現力等の育成に的確に結び付いていない状況が考えられる。授業についての質問紙調査の結果においては、児童生徒が活動の主体となるよう各学校では授業改善を進めている様子が見え、ことから、一層適切な手立てを講じることが求められる。

(3) 平成27年度における改善の手立て

①学校訪問等による指導

通常の学校訪問のほかに、全国学力・学習状況調査の結果分析による各校の課題に対する取組と学習状況調査による検証・改善を支援するため、各学校の要請に応じた学校訪問や市町村教育委員会からの要請に応じた研修会への講師派遣を行った。

②県の課題の提示

県教育委員会は、各学校が指導の改善に役立てることができるよう、本調査の結果等から明らかになった課題を、1月中旬に各学年・教科ごとに1、2問提示した。

③来年度以降の授業改善に向けた取組の報告

各市町村教育委員会及び各学校は、本調査の結果を基に成果と課題を明らかにし、来年度の授業改善に向けた取組をまとめ、3月に県教育委員会に提出する。

(4) 平成28年度の取組

①学力向上支援事業

- ・教科指導CT（中核教員）養成研修会

地域の教科教育において中核的な役割を担う教員（CT：コア・ティーチャー）による提示授業を基に授業研修会を行い、教科指導力の向上を目指す。

- ・学校訪問指導

全国学力・学習状況調査及び本調査の結果分析による各校の課題への取組と検証・改善を支援するため、各学校の要請に応じて義務教育課及び各教育事務所・出張所、総合教育センターの指導主事等が、授業改善のための学校訪問等による指導を実施する。

- ・学力向上支援Web活用

単元評価問題をWebサイトで配信し、基礎的・基本的内容の定着を図るとともに、各学校の授業改善を支援する。

- ・理数才能育成プロジェクト

(理数レベルアップセミナー)

算数・数学及び理科に関する専門的な探究活動を通して、数理的な考え方及び科学的な見方や考え方を一層伸ばし、主体的に問題解決に取り組むことができる児童生徒の育成を目指す。

(科学の甲子園ジュニア秋田県大会)

中学生を対象に科学好きの裾野を広げ、理数における思考力・表現力等の育成を目指す。

②あきたの教育力発信事業

- ・学力向上フォーラム

小・中学校の授業を公開し、県内外の教育関係者によるパネルディスカッションを行うなどの学力向上フォーラムを開催し、一層の学力向上を図る。

- ・検証改善委員会

全国学力・学習状況調査の結果等を分析し、学校改善支援プランを作成して教育指導に係る提言を行う。

- ・新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト

本県で推進している児童生徒主体の探究型授業の一層の充実に資するため、主体的・協働的な学びの視点でこれまでの取組を再検証し、工夫、改善を図る。